



ズイコワ・アレクサンドラ10歳



現地の廃屋



バイオガスの建設工事



バイオディーゼルで走るトラック

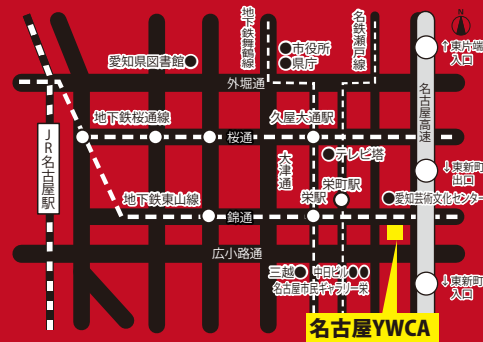
チェルノブイリ25周年救援企画in名古屋

～被曝した子どもたちの願いに応えるために～

2011.4.24日 13:30～
名古屋YWCA 多目的ビッグスペース

地下鉄「栄」下車、東5番出口 錦通りを東へ徒歩3分
※公共交通機関でお越し下さい。(駐車場はありません)

参加費
1,000円
(18歳以下、障がい者無料)



～菜の花が拓くチェルノブイリの未来～

チェルノブイリ・ナロジチ再生 菜の花プロジェクト報告

汚染地・ナロジチ地区で2007年より5ヵ年計画で開始した『菜の花プロジェクト』は、終盤を迎えようとしている。持続可能なエネルギー生産と農地改善による土壌改善。「被曝・病気・貧困の負の連鎖」を断つことはできるのか。現地最新の情報を報告します。

神野 英樹 氏

チェルノブイリ救援・中部 理事。
学生時代から、環境(公害)問題に関心を持ち、広瀬隆さん、広河隆一さん達の提言から多くを学ぶ。1990年の同団体設立当初より、救援活動に参画。1996年4月、チェルノブイリ事故の10周年祈念式典に、同団体の理事長として出席するなど、現在までに延べ5回ウクライナ現地を訪問。
同団体が発行する機関誌「ポレーシェ」の編集や、各種イベントで積極的に広報活動を担当。



再生産が続くチェルノブイリの悲しみ

～チェルノブイリ25周年 現地最新報告～

世界を震撼させたあの事故から四半世紀を迎えようとする2010年12月14日、ウクライナ政府は事故を起こしたチェルノブイリ原発周辺の立ち入り制限を解除し、2011年に観光地として正式に開放すると公表。その、外貨獲得のための観光地化政策のかけで見捨てられていく被曝者たち。

広河氏はこの講演会直前に現地訪問をし取材した彼らの現状を映像を使って報告します。

広河 隆一 氏

フォトジャーナリスト。写真月刊誌「DAYS JAPAN」編集長。
中東問題と核の問題を中心に取材を重ねる。チェルノブイリとスリーマイル島原発事故の報告で講談社出版文化大賞(1989年)、「チェルノブイリ消えた458の村」で平和・協同ジャーナリスト基金賞(1999年)、「写真記録パレスチナ」で日本写真家協会賞年度賞、土門拳賞(2003年)など受賞多数。
1991年、チェルノブイリ子ども基金を設立、医療機器・医薬品・ミルクなどの支援や困窮家庭に対する経済的援助を行っている。(1999年より顧問)





「サーシャ10歳。2003年に鼻咽喉の筋肉腫が発見され、手術を繰り返している」2009.3撮影

25年の軌跡 チエルノブイリ 広河隆一写真展

チエルノブイリ25周年救援企画in名古屋



2011.4.26(火)~5.1(日)

9:30~18:00 (最終日は17:00まで)

観覧料
無料

名古屋市民ギャラリー栄 第6展示室

地下鉄「栄」下車、12番出口から東に50m/市バス「栄」下車徒歩5分

※公共交通機関でお越し下さい。

1986年4月26日のチェルノブイリ原発事故から今年で25年経ちます。

西側ジャーナリストとして、最も早く現地入りをした広河隆一氏は、2010年までに50回を超す現地取材をしております。

その膨大な記録写真の中から、25年間の悲劇をたどっていただける写真を約60点展示いたします。

主催：チェルノブイリ25周年救援企画in名古屋実行委員会

「特定非営利活動法人広河隆一非核・平和写真展開催を支援する会」内

後援：名古屋市 名古屋市教育委員会 愛知県教育委員会

問い合わせ先：TEL 059-229-3078 または 090-1239-1410

